整備事例 1

コミュニティカフェの新設

～高齢化した街の力を引き出す新たな多世代交流拠点～

元台湾料理店を改修。オレンジのドアは日野南地区のお宅に多く植えられている夏みかんをイメージしている。

港南区南西部の丘陵地帯に位置する日野南地区は、昭和40年代に開発された大規模な戸建て住宅地で、現在区内で高齢化率が最も高い地域です。そんな地域にヨコハマ市民まち普請事業を活用して整備されたのが、「コミュニティカフェ－icocca(いこっか)」です。

3人の発起人の1人、代表の池田さんは、介護福祉士として仕事をしている中で、「ただ誰かと話したり一緒に過ごしたりしたい」という利用者の求めに応えられない悩みを抱えていました。同じく発起人の杉山さんは、地区の民生委員会の会長で、高齢者が地域の中で気軽におしゃべりができる場所が欲しいと思っていました。2人は長らく住まいが隣で、互いの問題意識を話す中で、10年ほど前から地域にカフェがほしいと漠然と考えていたようです。

もう1人の発起人である鳥海さんは保育士として働いていましたが、自身の初めての出産・育児の時に、子どもだけでなく親も含めてケアをしてくれる場所が少ないことにあらためて気付き、身近に親子の居場所をつくりたいと考えていました。

その後、日野南地区に引っ越してきた鳥海さんは池田さんと出会います。きっかけは各々別々の方から「地域の子ども会をつくるのを手伝ってほしい」と相談されたこと。単に子ども向けではなく、親も地域の大人も一緒に楽しめることがしたいと考えた2人は「地域の子どもたちの絆を深める会」、通称「そうだ！何しよう会」を立ち上げます。平成29年のことです。

同時期に、杉山さんは連合自治会長や地区社会福祉協議会の方と、子どもから大人まで誰でも自由に集まれる場所をつくるために「日野南カレー屋さん」という取り組みを自治会館で始めました。「そうだ！何しよう会」も一緒になって、1階ではカレーライスを作って、2階では親子向けの催しを行うようになりました。3ヶ月に1回の開催に毎回100人を超える人が集まるようになり、高齢者と親子が生き生きと交流する姿を見て、3人は「地域の方が毎日集まれる場所」が欲しいと考えるようになりました。

地域の中で場所を探し始めますが、個人の集まりではなかなか物件を借りることも思い切れません。そんな時、地域ケアプラザの職員からまち普請を紹介され、応募することにしました。ただ、それが応募締め切りの10日ほど前のタイミング。提案書は寝る間を惜しんで書いたそうです。

「カレー屋さん」を通じてすでに連合自治会長ほか街のキーマンとのつながりができており、さらに池田さん鳥海さんの友達も巻き込んで、1次コンテストは満票で通過。しかし、1次コンテスト後すぐに、予定していた場所が使えないことがわかります。場所探しが一番苦労したとのことでしたが、その間に多くの人に活動を知ってもらう機会が生まれ、1次コンテストの時よりもさらに多くの人に応援してもらい、2次コンテストも見事満票で通過しました。

場所が見つかりコンテストも通過して、やっとコミュニティカフェづくりに着手できると思っていた矢先に新型コロナウイルス感染症が本格化し、思うように活動ができなくなりました。そんな中、日野南地区でもマスク不足が深刻に。そこで、「つながるマスクプロジェクト」と名付けて、まち普請をきっかけに発行し始めた広報紙「ｉ－ｃｏｃｃａ(いこっか)通信」にて、地域で余っている布とマスクの縫い手を募り、地域の力を借りて布マスクを製作し販売会を実施しました。その他に、健康を考えた7種類の惣菜を提供するランチメニューを開発したことで、多くの小皿が必要になったので、地域からお皿を寄付してもらうことにしました。その名も「旅するお皿プロジェクト」。集まった200枚以上の小皿にはそれぞれ以前の持ち主の思い出があり、食事と一緒にその思い出も伝えられていきます。このようにコロナ禍でもできることをやりながら、並行してコミュニティカフェの整備にも取り組みました。壁の塗装は自分たちで手がけ、令和2年10月にオープンを迎えました。

オープン後、12月までは予約なしではランチも食べられないほど盛況でしたが、年が明けて1月に緊急事態宣言が発出されます。特に高齢の方は感染を避けて外に出なくなったので、ランチを休止せざるを得ず、お弁当の販売だけに切り替えました。一方で、親子の居場所が閉じてしまい行き場のなくなった子育て世代や、友達の家では遊べず放課後に集まれる場所を求めていた小学生たちのために、状況を踏まえながら徐々に場をひらいていきました。現在もコロナ感染防止対策を講じながら、お年寄りから子どもまで地域の方々の居場所になっています。

コロナ禍においても地域の声に寄り添い続けるｉ－ｃｏｃｃａ。「まち普請に挑戦したことで、まちの多くの人とつながれて、あらためてこんなに豊かな地域だったことがわかった」と鳥海さん。「高齢者が安心してずっと住んでいたいと思うのと同じぐらい、子どもが大人になった時にこの街に住みたいと思えるようにできることを考えたい」と池田さん。2人を中心に、杉山さんはじめこの街を育ててきた方々に支えられながら、ｉ－ｃｏｃｃａはこれから先も世代を超えたつながりを紡ぐ場であり続けることと思います。

壁紙の張り替えや壁の塗装はメンバーに加え、近所の方も手伝ってくれた。

クリスマス会の様子。自然と多世代が一緒に過ごす場所になっている。

左側は小箱ショップ（棚ごとにレンタルし手作り品などを販売するスペース）で、「つながるマスクプロジェクト」がきっかけでレンタルした人もいる。床が様々な色の木材になっているのは、いろいろな人が集まって一つの場所になるというコンセプトを表している。

コミュニティカフェの新設（港南区）

整備主体…みんなが繋がる憩いの家ｉ－ｃｏｃｃａ作り隊
整備場所…港南区日野南6丁目29番17号
整備内容…キッチン、トイレ、建具、内装等
竣工時期…令和2年10月